

祇園会鋒の児は其町々の当家よりゑらび出し、六月朔日本社へ参詣する事、嚴重にして肩輿に駕し、先キ歩徒後丁従者多く烈を正し、其行粧威風凛々として宛高貴の往来の如し。是なん神の威徳のいちじるしきなるべし。／しばらくは雲のうへ也鋒の児